



魔法少女

あきら

試し読み版

大熊狸喜
表紙イラスト:トイト

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『魔法少女あきら』
に基づいて作成しております。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



魔法少女
あまら

大熊狸喜
表紙 / トイト

登場人物紹介

Characters

ななせ

七瀬あきら

明るく優しく勉強はイマイチなショートヘアの少女。フリフリネコ耳しっぽ付きな魔法少女になることに。

シロくん

異次元から来た肉まんのような姿の妖精。あきらに魔法少女の力を与える。

「ストライーク！ バッターアウトっ！」

フルスイングした相手チームのバッターが勢い余って尻餅をついて、ソフトボールの試合が終わった。結果は「3対0」。完封試合だ。

「やあつたああ〜!!」

「きやああ〜つつ！ 勝った勝ったあつ!!」

グラウンドの中央、少し小高いピッチャーマウンドで飛び跳ねる勝利投手の少女。ショートパンツから健康的な脚をニョッキリと伸ばし、掲げた両手に合わせて豊かなバストがタプタプと揺れている。

ピッチャーの周りには、キャッチャーをはじめチームメイトの少女達がキャーキャーと集まり輪になって、バッターボックスの中では相手チームのバッター少女がガツクリと肩を落としていた。

「やったね、あきら！ ナイスピッチング!!」

「今年二回目の完封試合だね〜!!」

「えっへっへ〜！ チームワークの勝利ってやつだねっ！ ぶいっつ!!」

満面の笑みでVサインをつくる、ショートカットでつり目なスポーティ少女。学園の女子ソフトボール部、エースでピッチャーを務める一年B組「七瀬あきら」はキャッチャーと抱き合い、チームメイトとハイタッチをして回った。

それぞれの選手達がベンチへと下がると、あとはみんなでグラウンドの整理だけだ。

「これで二度目の完封試合か。流石だな、七瀬！」

ベンチ裏のネット越しにハキハキとした少年の声が聞こえる。野球部のキャプテン、青木だ。

「えへへ、青木君、ありがと〜！」

明るく笑ってハイタッチをする二人。同じスポーツマンとして、男女を超えた、ライバルの様な友情で二人は結ばれていた。

都立の普通科に通う、元気でボーイッシュなスポーツ少女、七瀬あきら。

サッパリと切ったショートヘアと、クリクリとして大きいネコのようなつり目が、とてもキュートでよく目立つ。

小さな鼻もスツとすじが通っていて、いつも元氣におしゃべりをしている口は意外に小さい。

一見すると少年の様なハンサム顔だが、その下には八十三センチもの豊かなバストが実っていた。百五十センチ強（本人談）の小柄な身長からすると、そのバストはまるで小玉スイカのようにも感じられる。

ウエストの引き締まり具合も、ソフトボール部で鍛えているだけあって、夏の制服の上

7

からでもその細さと筋肉の強さがうかがえた。

バストに比べてお尻は小さく見える。しかし張りもサイズも十分年頃の実りを見せていて、更に鍛えている分だけキュツと上を向いていて、スカートを持ち上げている。

ユニフォームのショートパンツや制服のミニスカートから伸びる艶やかな脚も、健康的なつやと張りがあつて、まるで元氣の良い子鹿の様だ。

意外と日焼けしない体質なのだろう。ややキツ目のベビーフェイスも覗く手足も、真っ白なのに薄く桜色を浮かせていて、それだけで男子を刺激しそうな健康的な色気がある。

小柄なのにボーイッシュで、しかも男女を問わず分け隔て無く気さくに話しかけられるその性格から、みんなに人気があつた。

女の子なのに相手にミニスカートを意識させない女の子。クラスの女子達からもデートに誘われてしまう女の子。

それが、ボーイッシュで明るいスポーツ少女、七瀬あきらであつた。

そして、そんなあきらは三日前、なんと魔法少女になつてしまった。

その日、二階にある自分の部屋で、あきらは空飛ぶ肉まんと遭遇した。

「やつと帰ってきたか、待つてたぞ」

ファンシーな羽を生やした、バレーボール程もあるしゃべる肉まんの正体は、異世界か

ら来た妖精だという。

妖精の話によると、今年あきら初の完封試合を成し遂げたその日、異世界では五百年に一度の「魔法が弱まる日」だった。

あきら達の試合会場で発生した「やったねオーラ」と「がっかりオーラ」が竜巻になって、異世界とのゲートを開いてしまった。

その際、閉じ込めてあった不良品魔法のタネ「パッションシード」が大量に流出、こちらの世界に流れ込んでしまったというのだ。

「だから君には『魔法少女』になって、ボクと一緒にタネを回収して欲しいんだ」
「ええ〜？ なにそれえ」

ただでさえいいかげんっぽい話なのに、更に魔法少女とか言い出す肉まん。

「タネに取り憑かれた者は、時間が経つと発芽されてパッション獣になっちゃうぞ」

そうなったら最後、欲望の赴くままに、死ぬまで女を犯す怪物になってしまうという。

「な、何よそれ！ 変なこと言わないでよ!!」

結局ナゾの妖精はそのまま部屋に居着いてしまい、でも実は、今日まで何も起こっていないのだ。

そして今日、異変は起きた。

「むっ!! タネが出た。あきら、変身だ!」

「へ? わっつ、まぶし——」

シロくん(白くて肉まんみたいなので)がファンシーな羽を振ると、帰宅したばかりのあきらの衣服が、強烈な光を放ち始めた。

纏っていた学園の夏服が光の糸になって、ほぐれるように分解されていく。スカートやブラジャー、ショーツまでもが糸になり、全裸姿のあきらを囲むように旋回する。

「や、やだっ! 恥ずかしいよおっつ!!」

身体を隠そうとして、しかし何かの力で引っ張られて、手足を開いた「介」みたいなポーズにされてしまった。

つま先から、指先から、光の糸が次々と巻きついて、新たな衣装に変わっていく。

ヒザから下は、ゆったりとしたブーツを履いて、腿の殆どは長いソックスに覆われた。

掌はヒジ近くまである真つ白な手袋で、太い袖が一体化した不思議なデザイン。その下には、上腕まである長い手袋も着けている。

八十三センチの巨乳を包み込んで更に強調するかの様な、メイド服にも似た上半身に、ギリギリ過ぎるフリフリのミニスカート。

そして頭の上には、小さな冠と鈴が付いた巨大なネコ耳が被さっていた。しかもフリフリミニスカのお尻には、元気に立ち上がったフワフワの尻尾まで生えている。

大きく反り返っていて、先端のキノコも大きく膨らんでいる。

ネコ耳シッポ付きのメイド姿で男のズボンを下ろしている、ボーイッシュなクラスメイ
ト。その姿と雰囲気のエッチさに、委員長は頭を切り換えたようだ。

「ううむ、何だか解らないが…よかつたら僕にも協力させて貰えまいか。人生、時には臨
機応変さも必要だ。どうせなら僕も一緒に楽しみたい」

「いい事言うな。だつたら、そらっ」

妖精の力で委員長の拘束魔法が解かれる。自由になった少年の手で、あきらは魔法衣装
のボタンを外されてしまった。

「え……あ……っ!」

上から外されていくボタンに合わせて、衣装の胸がはだけていく。

柔らかい双つの乳房が、布から押し出されるように変形しながら、少しずつ解放される。
「やん、恥ずかしいよ……」

あきら自身も、エッチな雰囲気呑まれ始めていた。自然にボタンを腰のリボンに挟ん
で、両掌でペニスをそつと掴み、スリスリと優しく上下にさすり始める。

うっすらと上気した双乳が、自身の重さで滑るように布を押しつけ、タプンとこぼれ出
た。空気と視線に触れさせられた桜色の乳首が、キュウ…と控えめに硬化する。

「大きくて重くて、スベスベしているね…おや? 乳首も硬くなっているな、七瀬君」

「んん……高木君の、えっち……」

言葉だけで官能に火を点けられてしまったのか、お尻までモジモジと動き出す。漏れてしまいそうな恥ずかしい声を抑えようと、少女は少年の硬肉への奉仕に集中する。

しゅりゅしゅりゅ、ニユシユニユシユ。

一生懸命なあまり、迪々しく前後する頭の上ではネコ耳が揺れて、左右に揺れるお尻の上ではフワフワのシッポが振られている。

(……高木君……感じてくれてる、かな……?)

様子を伺った視線が、こちらを見つめる委員長の視線と合ってしまった、恥ずかしさに思わず目を閉じてしまう。

「七瀬君、身体を逆にして」

「は……はい……」

頭を撫でられながら優しく「命令」されて、身体が素直に従ってしまう。完全に主導権を握られてしまっている、奉仕の魔法少女。

男性器を挿んだまま委員長の頭を跨いで、シックスナインの姿勢にされてしまった。

「うゝむ、綺麗なお尻だ……ふふ、下着も随分と汁を含んでいるぞ」

「やん……そんなとこ、見ちやだあ……!」

男子の目の前にお尻を突き出す、恥ずかしすぎる格好にされてしまっている。それなの

にお尻をシツカリと掴まれてしまい、恥ずかしくても隠すことが出来ない。

スシユスシユシユ、しゅりりり。

クラスメイトの身体の上で熱い硬肉全体をさすりながら、お尻を向ける恥ずかしい姿勢でバストを揉まれ、濡れ透けた下着まで真近に見られているボーイッシュな魔法少女。

「フリフリネコ耳の七瀬君がこんな大胆なポーズをして…うむ、実に興味深いな」

「…ひん…だ、だつてえ…」

「ふふふ…ほら、手を休めないで」

硬い熱脈に掌を灼かれ、汗を纏う身体を弄ばれて、更に下着の上から柔らかい肉の割れ目を、指ですうう…となぞられた。

「きゃふっ！　そ、そんな処…、触っちゃ——んふうん…！！」

ペニスの先からじんわり浸み出た透明な汁が処女の掌を犯す。ボタンを離れたわけでも無いのに、身体の奥がズクンと跳ねた。

「もっと…気持ちよくなつて…高木君…」

そんな言葉が、無意識に漏れていた。両掌で肉棒をマッサージしながら、濡れた掌がユリリと摩擦を早める。

「なら、一緒にイこうか…七瀬君」

下着の上から熱い舌に、ずちゅりと割れ目を責められた。

「ひやはあつ！ …舌、熱いよお……っ!!」

下着のサラつきと舌の力強さで、媚唇全体から全身隅々までが、甘い熱電に駆け抜けられた。

お腹の奥で、切ない何かが急激に膨らんでくる。指先までもが、小刻みに震え始める。あきらの知らない性の頂点へと、身体が押し上げられていく。

「ふふ、そろそろいきそうだね…僕もイかせてもらおうよ」

「イク…？ イくつてなに——りゃふつつ!!」

下着の上から媚肉芽を剥かれ、布ごと舌でコロがされた。

その瞬間、お腹の奥の性感風船が一気に破裂して、頭の先までもが快感甘電に突き抜ける。

「やはあつ！ こっ、こんなのっつ！ いっ、いつちやうよおお……っつ!!」

びゅくっ、ドプビュクツツ、びゅぶぷつ。

頭の中を真っ白に灼かれながら、あきらは再び顔を、髪を、そして剥き出しの豊乳までを、委員長の精液で真っ白に穢された——。

「なんか委員長…女の子の扱いとかすごく慣れてるような…そういうえば、OLのお姉さんと付き合ってるとかかってウワサも……」

なあ、へへへ」

ライバルの言葉に、薄らいでいく少女の心が傷つけられる。それなのに、身体は淫らな奉仕をやめようとはしない。

フェラチオもパイズリも実際にするのは初めてだ。しかし毎日妖精に練習させられていたからだろう、少女自身が驚く位、身体が滑らかに動いた。

「ソフトボールのピッチャーなんかより、俺たち野球部の為にその身体を使えよ。その方が似合ってるぜ、『身体マネージャー・七瀬』としてよお、ハハハ」

(ひ…ひどいよ…青木君…)

タネの影響で理性が狂わされている事は解っている。だけど、涙が止まらない。

「身体マネージャーとしての最初の仕事だ。ちゃんと飲めよ」

後頭部を強く押さえられて、強引に喉の奥深くにまで熱棒を押し込まれた。

「んんんっつ！ んんんんんっつ!!」

苦しくて咽せそうになったところに、初めて熱い体液が放出される。

ぶしゅびるるるるっつ！ どビユるぶぶぶつぷつぷしゅつつ!!

「んぶぶつ…けほつえほつ…まっつて、青木く——んんんんんっつ!!」

思わず吐き出してしまったペニスを再び押し込まれると、逃げ場を失った喉が勝手に精液を飲み込み始めた。

コクコクと喉を過ぎていくライバル少年の精液は、ニオイも熱も、それを吐き出すペニスの脈動までもが、少女の脳裏に灼きつけられていった。

「へへ、上等上等。ピッチングよりもいいセンスしてるぜ」

「……もう——こほっ……やめてよ……青木く——けほっけほっ！」

バトンを失い魔力は弱まり、パートナーにまで見捨てられたネコ耳魔法少女は、それでも必死に友達を救おうと、せき込みながらも声をかける。

そんな健気なボーイッシュ魔法少女の姿に、少年は更に発情した。

「そんなエロい身体しといて何言ってやがる、これからが本番だせ」

キャプテンの操る部員達に引き倒されたあきは、仰向けのまま押さえつけられる。両腕を開いて、M字開脚のままヒザを双乳の横位置に来るまで身体を折られた。

フリフリのミニが完全に捲れ返って、顔や胸からお尻まで、「女の部分」を全て捧げ見せる、恥ずかしすぎる姿勢にされる。

「やだあ……は、離してよお……!!」

薄くて純白の下着は、既にたっぷりと恥蜜を含み、張りついた柔肉の一筋までもクツキリと肌色に透けさせていた。

「へへへ、こんなにエロ液で濡らしておいて、処女膜のにおいがしてやがる……」

ライバル少年の中指で、肉溝先端からお尻の媚肛までを、下着の上からつるうつとなぞ

られる。

弱い力で敏感な肛門をクニクニと押されると、恥辱的な性感に腰がヒクンと跳ねた。

「ひくっ……！ さ、さわら………ないでよお………!!」

「さあて、七瀬のま〇こ、見てやるぜえ！」

「やつ……！ 待って、いやあっつ——!!」

前後から捕まれた薄い生地は、興奮した男子の力であっさりと引き裂かれてしまう。

びりっという弱々しい音がグラウンドに響いて、まだ誰にも見せたことのない少女の秘処が露わにされた。

「これが七瀬のおま〇こかあ。毛が生えてないとはなあ、へええ」

「~~~~~!!」

とうとうボーイッシュな魔法少女は、まんぐり返して秘処を晒されてしまった。つるつるのお尻も剥き出しにされて、高々と掲げられてしまう。

密かにコンプレックスだった無毛まで知られてしまい、その上大勢の男子達の視線を秘唇に感じて、全身が羞恥の熱でジリジリと灼かれていく。

「……うく………!!」

ライバル少年の指で、あきらの秘処柔肉がちゅくり、と開かれる。

媚溝の先端で包皮を剥かれた赤い肉芽や、ほんの小さく膨らんだ針穴のような尿口、綺

麗に形の整った左右の媚唇や、外気を感じてヒクリとわななく締まった媚孔、会淫から続く桜色の肛門までもが、ライバルでもある男子野球部員達の前に晒されてしまった。

消え入りたい程恥ずかしいのに、処女の狭孔からは新たな恥蜜がトロリ、と溢れる。

「女は一生、初体験を忘れられないというな。七瀬の処女は、俺が奪ってやるぜ！」

「——!! ま、待って！ やめてえっ、それだけは——ひいつつ!!」

媚孔入口で感じた熱が、硬い肉になって狭媚筒を押し広げながら、入ってくる。

ライバルの男の子に犯されて、処女を奪われる。あきららにとってそれは、恐怖と恥辱以外の、何物でもなかった。

ミチミチと侵入してくる剛直は「男」という強い存在を教えながら、処女の証に到達する。ほんの少しだけ、薄膜が押された。

「ひきいっつ——！ や、やめてお願いいっつ……そんな事したら、本当に、もう……!!」

もう二度と、戻れなくなってしまう。男女を超えたライバルではなく、性快楽をくれる男性としてしか、意識出来なくされてしまう。

「俺が女にしてやるぜ、七瀬え」

「や、やだっ、青木く——いひつつ!!」

——びちんっつ。

「——いっ、痛い痛いっつ!!」

鋭い痛みが身体の中心を駆けて、脳の向こうにまで一瞬で突き抜ける。

ボーイッシュなスポーツ少女、七瀬あきは遂に、親友でありライバルでもある少年によつて、処女を散らされてしまった。

男性に突き刺された朱い媚孔からは、綺麗な処女血がつうつと一筋流れる。

少女の苦痛を無視して、少年がニユリニユリと侵入を進めた。

「いつつ——、痛い……やめて……お願い、青木……はふ……!？」

媚腔いっぱいにまで陰茎を差し込まれると、さつき飲まされた催淫精液が効果を発揮し始めた。少女の身体から、痛みが急速に消えていき、ジワリと切ない快楽に変わる。

「へへ、こりやあいい、七瀬のま〇こは締めつけもヒダヒダも最高じゃねえか！」

少女の膣壁が陰茎をムチムチと喰い締め始めると、少年の抽送が始まった。

「ひやああ……やつつ、やめてえっ！ 青木くんっ、ゆるしてえつつ!!」

長いペニスをギリギリまで引き抜かれて、一気に奥まで刺し貫かれる。少年は腰を上下に動かして、Gスポットを擦り立てながら子宮の入口をトストスとノックする。

じゅぷつりゅぷつりゅぷつ!!

女を開発し墮とす為の巧みな腰使いに、少女の膣壁は歓喜に震えて、男性自身をキュルニユルりと締めつける。

「ひゃひいつつ！ こんな——あひゅふっ！ こんなことされたらっ、あたしいつつ!!」

未だ穢れを知らない子宮も催淫効果で痛みを無くし、突つかれ続ける入口が硬さを失い、少年の突き込みを柔らかく受け止め始めた。処女の締めつけに少年は興奮し、次第にピッチが早まっていく。

一突き毎に強烈な性快楽の波に襲われ、快楽の熱電に背筋が灼き上げられる。全身が汗を噴き、身体中の感覚が性神経へと目覚めさせられて、脳神経までが快楽一色に染められていく。

「いいぜえ、七瀬え！ 俺の精液を子宮一杯に注ぎ込んで、イカせてやるぜえ!!」

「やああつっ！ やだ、やらようっ、あつあつ！ 赤ちゃんできちやううっ！ ひやふっ

——中にらされるのもっ、イカされるのもおっ！ はああふっ、や、やらああつっ!!」

子宮口を突破され聖壁を叩かれて、呂律が回らなくなる程理性が削られていく。

性の頂点へと叩き上げられていく身体を、ボーイッシュな少女には、もう止める事が出来なかつた。

理性も、手足の重力感も、身体中の熱感も、全てがすうっと失われて、あきらの全身が性感覚だけに塗り替えられた。

「イクぜつ七瀬！ 今日からおまえは男子全員の『身体マネージャー』だあつ!!」

じゅびゆるるるっつ！ ビュしゅううううっつ！ ドブびゅぶぶぶぶつっ!!

「ひいっ——ひはあああつっ!! おっお腹っ！ おらかいっばいいいっ——あはっはあああ

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>